

# 大地の恵み

blessing of the earth

## 「あきたの農業・農村の 魅力発揮に向けて！」

vol.7  
H18.3

— 地球人フォーラム 2005 —

- 2005秋田県中山間ふるさと水と土現地見学会
- 水土里の郷 わくわく探訪 ~土地改良施設巡り~
- わたしたちの食料・農林水産業・農山漁村のすがた — 農山漁村について —
- 疏水百選(上郷温水路群・田沢疏水)が決定 — 農林水産省 —
- 平成17年度活動状況報告



あきた  
食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

# 『あきたたの農業・農村の 魅力発揮に向けて!』



## プログラム

- 主催者代表挨拶
- 平成17年度秋田県  
21世紀土地改良区創造運動表彰式
  - ◎秋田県21世紀土地改良区創造運動奨励賞
    - ・水土里ネット市川堰(山本郡市川堰土地改良区)
    - ・水土里ネット子吉(由利本荘市子吉土地改良区)
    - ・水土里ネット湯沢中央(湯沢市中央土地改良区)
  - ◎秋田県21世紀土地改良区創造運動特別賞
    - ・秋田県土地改良事業団体連合会 雄勝支部
- 事例発表・活動報告
  - ◎21創造運動活動報告(平成17年度東北地方大賞推薦団体)
    - ・水土里ネット市川堰、水土里ネット湯沢中央
  - ◎「秋田県中山間ふるさと水と土フォーラム」活動報告
    - ・秋田県農林水産部農山村振興課
  - ◎「水土里の郷 わくわく探訪」感想文発表
    - ・明平真歩さん(秋田市立御所野小学校6年)
    - ・星川りささん(潟上市立天王小学校4年)
- 基調講演「語りは心の絵画～語り伝える大切さ～」  
平野啓子さん(語り部・かたりすと・キャスター)
- パネルディスカッション  
「あきたの農業・農村の魅力発揮に向けて!」

と き:平成17年9月10日(土)  
ところ:秋田拠点センター・アル☆ヴェ(秋田市)

主催

秋田県、  
あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

主管

秋田県農林水産部農山村振興課、  
水土里ネット秋田(秋田県土地改良事業団体連合会)

後援

秋田市、秋田県消費者協会、秋田魁新報社、  
NHK秋田放送局、ABS秋田放送、  
AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送



(シンボルマークについて)

緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、会員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。



# 主催者 代表挨拶



高畑 進

あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議会長

本日は第7回目のフォーラムとなりますが、皆様多数のご参加を頂き、お陰様でこのように盛大に開催する事が出来ました。厚く御礼を申し上げます。今回は秋田県主催による「秋田県農林水産フォーラム」が同時に開催されており、1階の「きらめき広場」と「アゴラ広場」でも多くの展示と即売会等が行われておりますが、この地球人フォーラムはその併設行事として開催いたしております。

今年は大候の面では昨年に比べますと、猛暑、残暑が長く続いているものの比較的平穏に経過しておりますが、3日前の台風14号により大きな被害を受けた所もございます。まもなく被災された皆様に心から御見舞い申し上げますと共に、これから大きな台風などの上陸もなく、無事実りの多い秋を迎えたいものとお願っております。

さて、私どもの地球人会議は、「食料」、「環境」、「ふるさと」という3つのキーワードを持っておりますが、今日はこのうちの「食料」に関連して一言触れてみたいと存じます。皆様方ご承知のように、最近「食育」という新しい言葉が使われております。数年前から国の各省庁でも、「食を通じた教育」が大事であるとして、いろいろな運動を展開してきていますが、この6月には「食育基本法」という新しい法律が成立し、7月から施行されております。「教育基本法」や「農業基本法」

といった法律は私共もよく耳にし、また使つてもいるわけですが、「食育」につきましても「基本法」を定め、国民的運動として取り組んでいくという趣旨で、議員立法によって制定されたところです。改めてこの法律を見てみますと、いま一つ興味深いところがございます。ご承知のように、一般的に法律が定められる場合は、第1条「この法律の目的」ということから始まりですが、この食育基本法にはその第1条の前に、長い前文が付いています。前文というのは、法律を制定するに到った背景とか目的を、第1条の「法律の目的」に書ききれない場合に、その前に文章として書き込む方式であると存じております。この前文のある法律というのは、数としては非常に少ないのですが、一番よく知られているのは憲法の前文でございます。字数にして約670字の前文がついております。ちなみに教育基本法にも、220字からなる前文がありますし、農業基本法も当初は前文がついておりましたが、平成11年の改正の時に廃止されています。

ところでこの食育基本法ですが、これには1145文字という大変長い前文がついています。その一部を紹介して見ますと、「21世紀におけるわが国の発展のためには、子供達が健全な心と身体を培い」というフレーズから始まり、「子供達が豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくためには、何よりも『食』

が重要である。」としてこの法律制定の目的は、特に子供をターゲットとしたものであることを明確にしております。その後は、現代社会での人々の食の乱れや、食の安全上の問題を指摘しながら、「こうした『食』の環境の変化の中で、国民の『食』に関する考え方を育て、健全な食生活を実現することが求められるとともに、都市と農山漁村との共生・対流を進め、『食』に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産・消費の推進、さらに食料自給率の向上に寄与することが期待されている」と書かれています。続いて法律本文を見ますと、保護者並びに教育関係者の役割や、国と地方公共団体の責務について触れながら、第11条では農林漁業者等の責務として、次のように規定しています。

「農林漁業者及び農林漁業に関する団体は、体験活動が食に関する国民の関心、及び理解を増進する上で重要な意義を有することにかんがみ、基本理念に乗つ取り農林漁業に関する多様な体験の機会を積極的に提供し、自然の恩恵と食に関わる人々の活動の重要性について、国民の理解が深まるよう務めるとともに教育関係者等と相互に連携して、食育の推進に関する活動を行うよう務めるものとすることを書かれています。

以上、長々と食育基本法について申し上げましたが、考えてみると私

ども地球人会議は、7年前から、今ご紹介したような法律の趣旨を先取りし、実践活動を行つてきているわけでありまして。地球人会議は財政やスタッフの面で、秋田県土地改良事業団体連合会の全面的なバックアップのもとに活動を続けてきており、また連合会の会員である各地域の土地改良区も、後ほどその活動の一端をご紹介していただくことになっておりますが、4年前から21世紀土地改良区創造運動として、各地域での実践活動を進めて来ております。

本日のフォーラムのテーマは、「あきたの農業・農村の魅力発揮に向けて！」となっておりますが、前段は県内各地の事例発表や活動報告をして頂き、後段は各分野で活躍されている方々に意見交換をして頂くことになっております。また本日の基調講演とパネラーをしていただく講師の平野啓子さんは、ご承知のとおり語り部としてもよく知られている方で、後ほど詳しくご紹介申し上げますが、現在農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員を勤めておられ、最近では先に決定されました「食料・農業・農村基本計画」や「農業白書」の審議にも参画されており、農業・農村についてはもとより広い分野で卓越したご見識のもとに活躍されておられます。

ご参集の皆様方には、最後までご静聴の程よろしくお願い申し上げます。開会にあたってのご挨拶いたします。



コーディネーター  
石塚 真人  
AKT秋田テレビ  
キャスター

**農業・農村の魅力伝える方法論を探りたい！**

**石塚** 今日は「あきたの農業・農村の魅力発揮に向けて！」という、壮大なテーマでお話させていただきます。結論が果たして出るかどうかわかりませんが、どうぞお付き合い下さい。私が生まれ育った所は、秋田市郊外の岩見三内（旧河辺町）という所です。子供の頃、春は里山に出掛けてチャンバラ（ごっこ）に興じ、夏は川に入って魚を捕り、秋ははさ掛けされた稲の間に入ってかくれんぼをしたりという、自然児として育ちました。その農山村で過ごした子供時代の生活が、年を取ったせいか、とても懐かしく感じられ、そして貴重な“宝物”なんだと思つてます。その中山間地域や農業が持つ多面性、それに土と水が人の心を癒すという事は会場の皆さんは十分に認識されている事だと思えます。問題はその魅力を都会、町部に住む人達にどう伝えていくか、そして伝えた後共通理解として農業・農村、中山間地域を守っていく方法論というものが少しでも、このディスカッションから見えてくればと思います。では、皆さんから自己紹介を兼ねて、秋田の農業・農村の魅力などについて話していただきたいと思います。まず、阿

部さんには東由利町長として行政サイドの先頭に立って町づくりを進めてきた立場からお願いします。

**「山紫水明の里作り」を基本に。**

**阿部** まず、我が町を紹介します。標高713mの出羽丘陵が、矢島と境界する我が町の山です。出羽丘陵は低い山並みで典型的な中山間地帯です。私は、14年間弱ですが町長職をやらせていただきました。町作りの方針という4本柱がありました。その一つが「山紫水明の里作り」でした。私達の町は、いわゆる川上ですから、川上には川上の役割があると。川下には川下の役割があるけど、我が町は綺麗な水を、そのまま綺麗にしながらか川下に流してやる、それが地域の役割ではないかと、それを山紫水明の里作りの基本にしたところでした。そこには八塩ダムという100万トンのダムがあつて、諸先輩が桜を植えたという経過があります。山紫水明の里作りを先輩に負けないで続けて行くと、地域作りを一生懸命やつたという思いが強くなります。

**子供たちには豊かな体験をさせたい。**

**佐藤(か)** 私は現在、潟上市立天王小学校に勤めております。子供の頃の農業体験はほとんどありませんが、叔母の所でジャガイモ掘りの手伝いをしたことがあります。あの土の感触と、ジャガイモが取れた時の喜びといいますが、それが今になつても昨日の事のようになんか心に残つております。現在は、庭の片隅で家庭菜園をしたり、知人の畑を借りて週末はそこに出掛けたりしています。その他、釣りや山菜採り、滝を見に行つたり、どちらかといえますと屋外にすることがいいかなと思いません。子供の頃の体験が、大人になつても生きて来ていると自分自身思っているの、子供達にも豊かな体験をさせたいと思えます。これは家庭、地域、学校で大人の私達が子供達の為に、取組んでいける事ではないかなと思つています。

**農村部と都市部との心の距離感がある。**

**佐藤(万)** 私の住んでおります羽後町田代地区は、かつて東京銀座で“嫁来いトラクターデモ”をした青年達がいる所です。戸数約600戸、標高230mの所にあつた山の中です。20年程前に、私がこの地域に住むかもしれないと思つた時に感じたのは「広い田んぼの中にボツンと一軒家なんだろうか」、「農作業はどんなふうにするのだろうか」という不安の方が大きかつた。私は横手市の出身ですが皆目見当が付かなかつた。ですから一つの町でも、農村部と町部との心の距離感というのがあるんじゃないか。それに情報社会の中にあつて、農業・農村の情報に関心が無い、知らないことが余計不安だつたのかなと思えます。地理的不便はマイナスイメージを持つていましたが、その後の農村生活の中で、それは見事に間違ひだつたと打ち破られていきました。

**石塚** さて平野さんは静岡県の沼津市のお生まれです。沼津というのは大きな漁村だと思いますが、そこで生まれ育つて今回のテーマである、農業・農村などについてどのようにお感じですか。

パネリスト  
**阿部 幸悦**  
元東由利町長



パネリスト  
**佐藤 かな子**  
潟上市立  
天王小学校長



パネリスト  
**佐藤 万里子**  
秋田県中山間ふるさと  
水と土保全対策委員



パネリスト  
**平野 啓子**  
語り部・かたりすと・  
キャスター



**全国を歩いて肌で感じた事を…**

**平野** 私は子供の頃、沼津の川の近くで遊んでいたんですが、小さな自然の川だと思っていたら、最近それが内前堀という水路で、昔、凄く苦労して作ったというところを知って感慨深いものを感じております。今、全国各地で語り部交流会を行っていますが、それと同時に各地の用水路見学というのをさせていただいて、ハッと息を呑むような美しさ、水を大量に供給してるとんだという迫力などを感じております。実際に肌で感じ取った中から、今日お伝え出来ることがあればと思っております。

**農業・農村の魅力と問題点は？**

**石塚** 今日は中山間地域を中心とした秋田の農業・農村の魅力をどうやって町部・都会の方に伝えていくか、そんなことをテーマにお話していただきます。まずは中山間地域を中心とした農業・農村の魅力について何か、そこに潜む問題点・課題って何なんだろうか。そこから話を起こして行きたいと思えます。阿部さんは、中山間地に住んで行政マンとしてずっと町を引っ張って来ましたが、その辺についていかがでしょうか？

**地域の良さを継承したい！**

**阿部** 中山間地だ、農村だと言っても人が住む限りは、人の思いというのは都会も農村もないわけで、沢山の問題・課題があると思います。実際、私たちは中山間地に住むわけで、マイナス面だけを捉えてもダメなわけです。私にはこの地域があり、雪は降りますし住むという意味では環境のキツイ所です。でもここには八塩山がある。八塩山の緑のブナを支える素晴らしい「ボツメキの水」がある。こういうものを我々大事にしながらここに住み続けるという意志を強くするところです。結果的には地域の皆さんの支えがあり、八塩山のたくさんの雪をそのまま流すのはもったいないと考えた先輩が、ダムを作ったそれが36年に竣工している。その周辺に桜を植えて来て、我々もずっと守り続けて先祖・先輩から継承しながら、我々の子供達にもきちんと継承してもらいたいという思いを込めての町長としての14年でなかつたかと思えます。「山紫水明の里作り」は、その言ひ事です。

**地域が農村の魅力を伝えるのは？**

**石塚** “伝える”という観点からすると、高齢化・過疎化と言われ



る中で、ほんとに昔みたいにその地域が共同体として、中山間地域や農業・農村の魅力といったものを伝えることが出来るのかというふうに考えると、その点どうですか？

**マイナスをプラスに考える。**

**阿部** 難しい事だろうと思えます。“プラスの物は何か、マイナスの物は何か”というのを整理をしなければならぬ。つまりは“何を指すのか”です。我が町に住むプラスは、何が東京と比べてここは良いのか。例えば、東京に出張によく行きませんが、東京に行けばベトナムの水を買います。150円です。でも我が町では八塩山のブナの湧水“ボツメキの水”というのがあります。昨日も行ってきました。

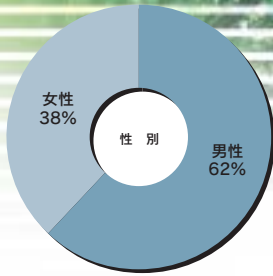
ましたが、2リットルのペットボトルにいつも10本くらい汲んで来ます。3週間ぐらい置いても腐らないんです。水源でもあるので2ヶ月に1回、42項目の検査をしますが何も異常がありません。“生水を飲んで下さい！”という宣伝はしません。私は生水を飲む。「私が住む町というのは、こういう所なんだ」と町民の皆さんに申し上げて、「だから我々はそこを大事にしなければならぬ。あの場所をきれいにしなければならぬ。ゴミを捨ててはいけない。川はやっぱりゴミを捨てる場所でない」というプラスの面を我々の宝として、きちんと継承していくことだろうと思えます。

**石塚** はい、わかりました。ところで今の話を聞いて、佐藤かな子さんはどうですか？

**実体験を通して子供たちへ伝えたい。**

**佐藤(か)** 私は子供を通してお話をさせていただきたいと思えます。農業の魅力を伝える方法として、学校では5年生が地域の協力を得まして、田んぼを借りて農業体験をしております。本校の5、6年生200人に聞いたところ、自分の家に田んぼや畑がある子供は

「地球人フォーラム2005」  
アンケート結果  
(アンケート回収率73%)



36%おりました。そこでお手伝い  
をすることが今の子供達は、とても  
少ないと思うのですが、本校では  
83%の子供達が田んぼや畑で手伝  
いをしているということですが。特  
に私が嬉しく思ったのは、手伝いを  
する時の気持ちについてですが、仕  
方なくやるのと、喜んでやるという  
二つの選択肢で聞いたところ、  
46%の子供達が喜んで手伝ってい  
るということだ。『ああ、良かった  
な』という気持ちがとても強いで  
す。また、直接田んぼに入り、初  
めて田植えをしたという子供の作  
文の中に、私自身もびっくりしま  
したが、「農家の人達が田植えをす  
る時に、愛情を込めて植えている  
ことを初めて知りました」、「稲も  
人間のようによく生きてるんだとい  
うことを知って良かったです」と  
いう感想を寄せた子供がおりまし  
た。直接的でなかった子供達が非  
常に身近なものとして稲を見るよ  
うになった。実際の体験を通して  
子供達が学んでいけるんだと思  
います。そういう意味で地域の  
方々からは、子供達を含め私達も  
農業の魅力を手伝いでいかなけれ  
ばいけないと思っております。

実際に農村部に住んでみて  
いかがですか？

石塚 農村・農業の魅力はどう

やって伝えていくのか、後でまた  
VTRを交えながら佐藤かな子さ  
んに話を聞いてみたいと思います。  
阿部さんの話では、マイナス面も  
あるが、豊かな自然やこれまで伝  
えてきたものとかに目を向けられ  
まだまだ捨てたもんじゃ無いとい  
う事でしたが、佐藤万里子さんは  
どうですか？

魅力と課題はたくさん…

佐藤(万) 私は枝豆の枝の先に

葉っぱが付いているのも知らな  
かった位、農業・農村音痴だった  
んですが、農業・農村の魅力をつ  
つ挙げますと、直接の食のふるさと  
に接し、新鮮で安全でしかも美味  
しいものをたくさん食べられ、気  
持ちまで強くそして優しくしてく  
れる医食同源の美味しさがある。  
人間もまた自然界の一員に過ぎな  
いという、謙虚な気持ちを思い起  
こさせてくれる環境である。自然  
という大きな営みの中で、人間も  
また生かされていることを実感出  
来る癒しの場だと思えます。それ  
から、私の方の地域住民は、自分  
達が住んでいる地域は自分達で手入  
れをするという自治意識が強いと  
思えます。それに、不便なものな  
で助けあいの精神に溢れていて、  
特に女性達には地域の素材を活か  
しきろうとする知恵や工夫に溢れ



ている。などが挙げられると思  
います。課題について様々あると思  
いますが、今日は耕作放棄地と女  
性に敬遠される農業という2つを  
挙げたいと思います。秋田県の約  
8割を占めている中山間の農業は、  
維持管理に手間が掛かり耕作放棄  
地が増えています。先日の新聞に  
は高齢化や農業人口の減少を背景  
に、水路の掃除や農地管理に8割  
の農家が不安を抱いているとい  
う農水省のアンケート結果がありま  
した。土地連のこうした事業を通  
して、農業人・農村人もまた、多  
面的機能についての重要性を改め  
て認識する必要があるのではと思

います。二つ目の問題点としては、  
女性が敬遠する農業・農村につ  
いてですが、農水省の農村女性に  
関する省内検討プロジェクトチ  
ームの調査によると、農業農村を若い  
女性が敬遠する理由のトップに挙  
げているのが「因習・慣習が煩わ  
しい」ということでした。この点  
については、次の発言でお話し  
したいと思います。

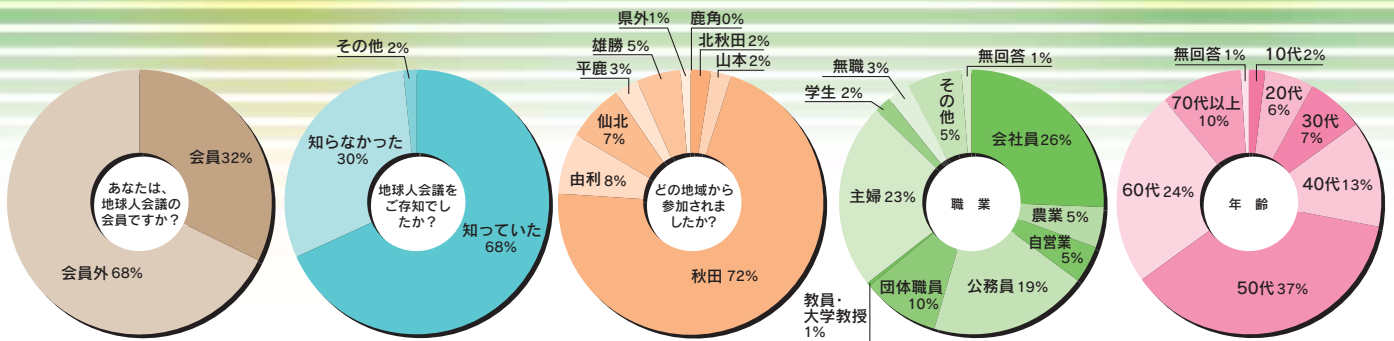
石塚 平野さんは、ご自分が都

会に住んでいて、3人の方々の話  
が出てきましたけれども、それを  
受けてどんなふうに思いましたか。

人が手を入れて歩みよった  
自然は、温かい…

平野 自然現象や生活と向き合

って、そして守ったり新しくして  
いこうとしたり、ご努力されてい  
ることを強く感じました。私も各  
地を見て歩き、平野部の水田に水  
が張られてる時の6、7月頃は、  
空の雲がもう鏡にしっかりと映るよ  
うに美しいと思いますし、少し山  
間に行った時は「よくこういつた  
所に畑を作ったな」とビックリす  
るぐらいで、やはり生きていく場  
所を皆さんそれぞれ工夫して見  
つけ、そこで生活を営んできたんだ  
と思わざるを得ないですね。大自然  
の美しさは迫力がありません。一瞬は



良いけど、ホッとするというところまで行くのに時間がかかると思いますが、ところが人が手を入れて歩みます。ところが人が手を入れて歩みます。寄って出来上がっている自然は、何人の温かさをその風景から感じることができます。「あ、ここに誰か住んでいる」という安心感というか、その工夫の一つ一つがただ美しいだけでなく、面白さを感じさせてくれるんです。私にとつての裏話を3人の方々から、お聞き出来るような感じがして、楽しく参加させていただいております。

### 5年後、10年後の自然は大丈夫ですか？

**石塚** 「人が手を入れて歩み寄った自然」というのは本当に良い言葉だと思います。私が育った河辺町岩見三内は、奥の方に岨谷峡（そやまやま）というのがある、そこから足を伸ばすと鶴養（つるやい）という集落があります。30軒前後の集落ですが、ハウステンボスを設計した建築家がその光景を見て「日本の中山間地の原風景だ」と話していました。そこには山があつて水田が広がって、沢水を引いたきれいな水路が流れています。その水路が今でも集落の生活基盤として使われています。でも、それも高齢化・過疎化が進んでもう5年たつたら、あるいは10年たつたらどうなるんだ

ろつと、私は故郷の自然が心配なんですけれども、阿部さんその点についてどうでしょうか？

### 10年・20年のスパンが必要。

**阿部** 我々心配してもキリがないわけで、ある意味では農村というのは、驚くほど住んでいる人間が少ないです。人口が少ないということは、強がりでありませんが残念な事です。けど、「大変だ、大変だ」ということだろうか私は反対に思います。当然、今までやってきた祭りに人が出て来ないとか、若者衆という集まりが潰れたとか、婦人会でなかなか若い人が出て来ない、という現実はありませんが、無理に人が住む条件や自然条件を変えたりするのは本当に良いことなのかなと思います。ですから、10年とか20年とかのスパンで見ていくとすれば、私はそれはそれでいいのではないかなと思います。

**石塚** 佐藤万里子さんどうですか？さつきの第2の問題点も含めて、ちょっと観点が違つかもかもしれません。

### 農村に住む女性が、新しいスタイルを作りあげる！

**佐藤(万)** 秋田県大仙市を対象に行つた「農村女性の社会参画を

阻む地域の因習と女性自身の気兼ね」という調査報告があります。それによると、①若い世代は夫の母親に気兼ねをする②壮年世代は夫に気兼ねをする③高齢世代は近所の目に気兼ねをする。その結果、女性の社会参加が進まないということが表れています。気兼ねは、わがままに対しては良いブレーキ、個人の能力開発や地域の課題解決には悪いブレーキとして働くのではないのでしょうか。また、因習は地域に伝わる良くない風習のことをいいます。良くない風習が行であれば、今の時点で私達自身が正していく必要があると思います。

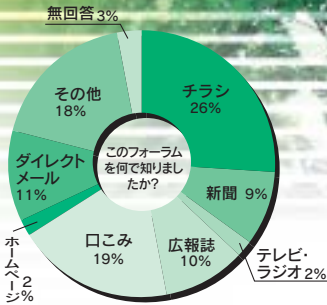
農村に住んでいる女性自身が、住んで良かったと思える農村にしなければいけない。良い慣習は引継ぎ、悪い因習の部分は見直し、新しい考え方や生活スタイルを作り上げていくことが大事だと思います。一つ例を挙げると、農業分野の女性起業件数で、秋田県が3年続いて全国トップになっています。食品加工、グリーンツーリズム、様々な分野で女性達が頑張っている。食育、観光、医療、福祉、教育、文化など様々な分野と連動させていくことで、農業農村の持つ魅力を十分に伝え発揮して行くのではないかなと思います。今日は講師に平野さんをお招きしますが、『農村の

語り部に女性自身なるうよ！』と、私は訴えたいと思います。

**石塚** 農村の語り部として、女性自身が住んで良かったと思えるような土地でなければ、その魅力を外にも絶対伝えられないはずなんですよね。これはグリーンツーリズムの先駆けみたいな気がしますが、平野さんは全国各地を回つてこられて、グリーンツーリズムだとか佐藤万里子さんの話で何か感じていることはありますか？

### 外からの接点を考える...

**平野** 外から行く人は楽しい部分、いい部分しか享受しないという欠点も一方にはあるものの、逆に触れることで近く感じるということがあつて、それをきっかけに、更にもっと奥深くまで知つて行きたいとなる場合もあると思います。このことは大切だと思います。きっかけがなければ踏み込む事もできていませんから。友達作りも一つの接点かと思いますが、例えば先程盆踊りのチラシをいただいたんですけど、こつこつた盆踊りやお祭りに参加して、地域の伝統芸能と一緒に参加することで、友達作りや情報交換が出来て淋しさがなく、生活も安心感を得られる形で出来るのかなと、そんなことも想像し



たりますがいかがでしょうか？

**農村と都市部との交流は？**

**石塚** グリーンツーリズムや地域のお祭りなどが、農村と都会との接点だというのは十分にあることだと思います。そういう意味で佐藤万里子さんは羽後町で都市部との交流というのは具体的にありませんか？

**地域特性を活かした方法、交流が大事！**

**佐藤(万)** 羽後町では毎年冬に「ゆきとびあ七曲」という、昔ながらの馬そりに乗った花嫁道中の行事があります。その時に、雪国体験ということで沖縄の子供達がスキューアを東京で買って秋田に来ます。ストーブを見るのも初めてという感じで、ホームステイをやっています。西馬音内盆踊りも3日間で14万人の観光客が訪れる伝統行事ですが、この時も町で民泊をして400人を受け入れています。受入側はB&B（ベッドと朝食付）で、それぞれの自宅によってはお家の畑を見せたり、踊りを披露したりと交流の仕方も様々で、その方々から内なる良さを教えてもらうということにもなると思います。それが都市と農村部の交流ということになっていきます。もう一つは、去年、県のフォ

ーラムで「またぎの里・阿仁町」に現地見学会で行かせていただきました。そこでは中山間地域直接

支払制度を使って、棚田を整備している様子を見ました。厳しい環境の中でも頑張っているんだということを実感してきました。お互いの農村同志、都市と農村の間で地域特性を活かしたやり方、情報・知恵というのも交換することが大事だと思っています。

**石塚** 今では交流に対して農家の方は抵抗はないかもしれませんが、当初はどうだったんですか？

**普段のスタイルが、外からの魅力。**

**佐藤(万)** お客様をお迎えるからには、やっぱり美味しいお刺身だとか、お肉を用意しなければいけないのかなと思ってましたが、訪れた方々は普通のぜんまいの煮付けや、きのこ料理とか普通の何気ない食べ物喜んでくださいました。私達が普段口にしてるのが、実は外には大変な魅力なんだということも、よそから来た方々に教えていただいて、それは凄い自信に繋がりました。

**石塚** 阿部さん、東由利の方ではどうですか、都会との交流とい

うのは？

**交流人口を増やすことで地域活性化を図る。**

**阿部** 確かに定住人口は減少していますが、今は道路整備が進んでますからグリーンツーリズムもそうですけど、交流人口という範囲ではものすごいものがあります。我が町には八潮山という地域の人々と共生する自然があります。今、そこにパークゴルフ場があります。そこで来週東北大会が行われますが、私も秋田県代表の選手です。パークゴルフ場は、横手、本荘、湯沢、大曲などから約30、40分の範囲です。そこに人が住む、住まない、定住人口がということよりも、行ったり来たりする交流人口がどのくらいなもので、地域の皆さんに活力を与えられるかということだと思います。我が町もそういうふうな地域、町作りを行ってききましたが、まずは道路がきちんと整備され、もつと面として広く交流があつて、地域の活性化があれば、そんなに心配することはないと思います。我が町にもグリーンツーリズムや飼育体験、芋掘り体験、はさ掛けなどをやっている方がいますし、広範囲で行ったり来たりという交流が出来てきているのは確かです。

**交流人口も一つのポイント！**

**石塚** 阿部さんの楽観的な根拠にあるものが、どういうものか分かっていたかかと思えます。定住人口が減るのは自然現象で仕方ないが、交流人口を増やすために知恵を出し、いかに仕掛けをするか秋田の農業・農村の魅力を外に伝える一つのポイントになるような気がしました。さてグリーンツーリズムや農業体験などが、いろいろ外に伝えるための手段とこのころにはありますが、ここでVTRをご覧頂きたいと思えます。子供達がどのような形で農業・農村に触れるのかという内容です。

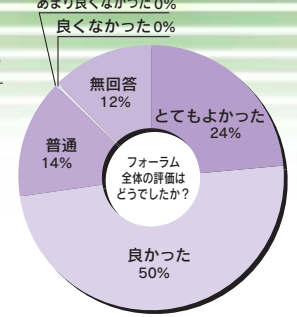
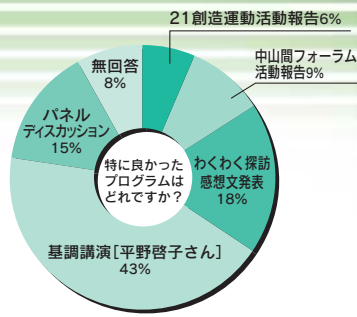
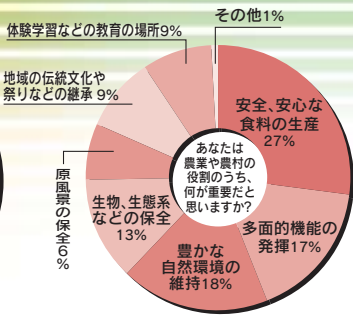
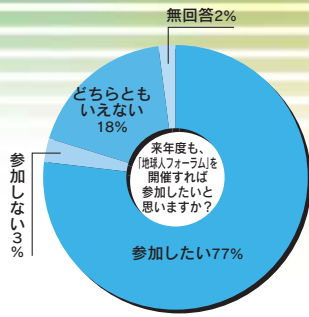
**「VTR」「水土里の郷 わくわく探訪」の様子**

**石塚** 佐藤かな子さんの潟上市立天王小学校でも、こうした「わくわく探訪」に子供達が参加してましたが、そうした活動を通じてどんなことを思っていますか？

**実体験を通じ、地域からいろんな事を学んでほしい！**

**佐藤(か)** 「わくわく探訪」を今回初めて知って、私自身がワクワクしながら探訪させていただきました。子供達と一緒に参加して、学校にいる時とは全然違う生き生





きとした子供らしい表情をしてい  
るなと思いました。今回は水に直  
接手を触れるのが、最後の湧水の  
所でしたが、しばらく手を入れて  
るととても冷たいという感覚は水  
道水ではありえないので、そとい  
う直接体験は素晴らしいと思い  
ました。それに、途中で草笛を作  
ったり笹舟を流したりとか、私達  
が期待しない部分での子供と水の  
関わりがあつて、とても良いなと  
思いました。こうした事業に関わ  
つて、意識改革と言いますか校長  
も含め先生達の意識も変えていき  
ながら、地域に生きる子供  
達の意識も少しずつ変えて  
いきたいと思います。続けて「八郎・  
太郎プロジェクト」の事を  
お話してもよろしいでしょ  
うか？本校では専門的な事  
を学ぶために、私は外部か  
らの指導者をお願いしたい  
と常々思っております。そ  
こで5年生の総合的学習  
で、米作りをしたいとい  
うことで、会場にもいらして  
ますが本校の前PTA会長  
さんに相談しましたら、学  
校の為に地域の皆様、行  
政の方々によってアツとい  
う間に、出前授業をさせて  
いただくことが出来まし



た。また、イベントは活動が終わ  
れば後は何も無いということにな  
って、継続して関わる事が出来  
ればと思つていたところ、今回  
「八郎・太郎プロジェクト」（「八  
郎湖に水性植物を植えましょう！  
元のきれいな八郎湖に戻しまし  
よう！」という地域による浄化運動  
に、ほんの一部ですが子供達を  
実際に参加させていただきました。  
子供達はまだまだ未熟なので、地域の  
そういう大きな流れの中にあると  
いうことは知らなと思つてますが、  
自分で出来るチョットした行動や、

環境に働きかけて行ける、少しで  
も保全に向つて働きかけて行ける、  
そういう主体性、行動力のある子  
供を育てて行きたいと思つてます。  
私達は地域の方々から多くのパワ  
ーをいただきました。地域の皆様  
も子供達からパワーをいただけれ  
ば、地域の人達や子供達もいろん  
なことを学ぶことが出来るのでは  
ないか、それが交流の良さだと思  
つております。

**石塚** 秋田では、すぐそばに水  
や土、そういったものに直接触れ  
ることが出来る環境にあります。平  
野さん、東京に住んでいると自  
然に直接触れる機会はなかなか  
いけませんね。

**お互いの良さ、欠点が見える  
はず。**

**平野** 本当は工夫してちよつと  
足を延ばせばという感じもしま  
すが、東京や都会の人達は、便利さ  
もどこかに求めてしまうところが  
ネックかなと思つてます。実は、か  
な子先生のお話していた、子供達  
にそういう体験を沢山させること  
に大賛成です。私も子供の頃、幼  
稚園の芋掘りでちよつと苦い体験  
がありました。畑の畝の間に一列  
にみんなで並んでいたら、押し戻  
されて、私は何にもないところに

行つてしまつて、畝の土を撫でて  
削り取つただけで、1個もとれ  
なかつた。それでも、その時の爽  
やかな畑の風景がピカピカ輝い  
て、今でも忘れられないんです。  
その時の悔しいとか、羨ましい思  
いがずっと大人になつても残つて  
るといふのは、それだけ、その体  
験が印象的な凄いい体験なんだと思  
います。それが去年やつとりペン  
ジじゃないけど、芋掘りが出来た  
んです。お芋が見えた時に涙がポ  
ロツと出たんです。それは、お芋  
を自分の手で抜けたという感動と、  
こんな素敵な事を私は子供の頃体  
験出来ずに見過ごされて今日まで  
来てしまったという思いだつたん  
です。行つたり来たりする事で、  
両方の土地の良さを感じることが  
出来ると思つて、ぜひ都会の子  
子供達は農村部に行つて農業体験  
をし、また農村の方にも東京に  
来てもらつて、都市部の良さ、そ  
れから欠点もいっぱい見つかると  
思ふんです。そういうものを感じ取  
つていただければなと思つたりし  
ております。

**中山間地域、農業・農村を  
元気にするには…**

**石塚** 交流、対流といったこと  
が、秋田の農業や農村の魅力を伝  
える一つの方法論だと思います。



話は尽きないかと思いますが、今日のいろいろな話を踏まえた上で、中山間地域、農業・農村を元気にするために具体的なお話も含めて考えを述べていただきたいと思えます。

**郵政民営化より中山間地域が大事！**

**阿部** 今、我が町も含めて中山間地帯で心配していることに中山間地直接支払制度とこの中山間地の農地に2万円(10aあたり)の直接支払をする制度です。2万円の半分は(農家の生産性が低いという意味も含めて)農家に行きますが、その半分は地域の共同体に支払う制度です。共同作業として賃金の中から出るのです、中山間地直接支払制度が出来てから、中山間地が本当に綺麗になったと言われています。5年で一区切りで、来年度から見直しになります。国が財政赤字の状況だとすれば、まずは削減の対象になるわけです。でも長期的に日本という状況を引き継ぎたいと思えます。中山間地ではないかと、私ら川上にいるものの立場で思えます。中山間地をきちんとしておかないと、川下も危ないよという時代なので、郵政民営化よりもこちらの方が心配

しています。

**石塚** この問題が出たので、佐藤万里子さんにまともていただきたいと思えます。

**お互いを認め合うことが活性化の出発点。**

**佐藤(万)** 阿部さんから、定住人口は減つても交流人口を増やす事が大事だというお話がありました。その交流の中心になるのは女性達じゃないか。今まで隠れていた魅力の一つとして、女性達がある潜在能力を発揮して生き生きと存分に活躍する、そういった感覚を農村の人も、農村を取り巻く都市部の方々も持っていたければ農村の活性化にも繋がるし、農村の今を外に對して発信出来るのではないかと思います。羽後町では地域で頑張っている人達を応援する「プロジェクトM」という集団があります。これは、地域で頑張っている人達を地域に住む人達が応援するという、例えば民謡大会をプロデュースからチケット販売、あるいは会場設営まですべてボランティアでやっている集団です。地域で頑張っている人達を、自分達が応援して一緒に楽しむ、地域の中でお互いを認め合う、それが活性化の出発点のように思えます。

**石塚** 自分達がやっぱり楽しくなければ、その魅力は外には伝わらないと思えます。佐藤かな子さんいかがでしょうか？

**体験を通じて、心豊かに育ってほしい。**

**佐藤(か)** 子供達が本当に土や水に親しむといいますが、一人一人にそういう体験をさせるために530個の一人一鉢の花を育てさせておられます。稲作体験とかは、いい所取りといいますが、子供達がほんとに難儀をしているのではなく、田植えや稲刈りの良いところだけ経験し、その裏にある苦勞のようなものを直接知らずに来ていることがたくさんあります。その辺をもう少し学ぶことが出来ればいいかなと思っております。地域と学校と一緒に、多くのことを学んで行けば子供達の心も豊かに育てていく事が出来るのではないかと思います。

**お互いを認め合い、自分自身に誇りを持つこと。**

**平野** 共生し対流することで、お互いを知ることが出来ると思えます。芸能の世界もそうですが、別のジャンルの方と直接知り合つて交流することによって、互いを知り認め合い尊敬するという感情が生まれ、更にそこから自分自身に誇りを持つようになるという現象が起きてきます。土地も人々の交流もきつと同じだろうと、自分の土地に誇りを持つようになれば、皆さんの顔が輝き、目が輝きそれが多くの人々の心を打つ、旅人の心を打つと思えます。こうしたことは是非今後も進めて行きたい。私も「そういう事が大切なんだよ」と言い続けたいと思つてます。皆さんの話を聞きながら、やはり農業の作り出す文化、風景、多面的機能は素晴らしいと思うので、農業を営む人をしつかり支えるシステム、仕組み作りというのは常に必要であると私は思いました。

**石塚** パネリストの皆さんの話を聞いて「自分もこんな事を言いたい」という意見がありましたら、会場の方どうぞお願いします。

**会場の人** 今日は本当に楽しい時



石塚 「白神山地」は手付かずの自然で、「西馬音内」は中山間地が育んだ文化であると思います。「がっこ」は秋田で年々続いた伝統文化でしょうし。そうしたものを是非いろんな所で語り継いでいた

### 魅力発揮に向けた「ヒント」を……

がと……ございました。お嬢さんが見えられて、1週間くらい泊まっていたいかったです。ほんとに今日は皆さんが私の興味のあることを、秋田の魅力をいろいろ掘り起こして下さりましてありがとうございます。

間を有難うございました。私が今一番関心にあることが「語り」と「食育」、「白神山地」と「西馬音内」です。特に、「白神山地」は、皆さんも世界遺産で訪れたこともあるでしょうが、年に3回くらい山に登っています。ふつくりした土を歩ませていただいたり、つるべ落としの風景を楽しんだりしています。また「西馬音内」は、佐藤万里子さんと去年「またぎの里」の見学会で一緒にしまして、万里子さんが今日出演しているからではありませんが、端縫いの着物や盆踊り、それに民宿がとも気に入りました。我が家でも子供達が小さな時から、外国の方がいるいる訪れて民宿をやっています。先日韓国のお嬢さんが見えられて、1週間くらい泊まっていたいかったです。ほんとに今日は皆さんが私の興味のあることを、秋田の魅力をいろいろ掘り起こして下さりましてありがとうございます。



だきたいと思えます。このパネルディスカッション、果たして結論めいたものが出たかといえは、そうではないかもしれませんが、ディスプレイを通して、皆さんなりに何か秋田の魅力、農業・農村の魅力、そういったものをドン・ドン伝えていく、伝播させていく方策のヒントにしていただけではないと思います。私自身は、いろいろ勉強させていただきました。そんな中で知らなかった事がたくさんありました。「これは絶対テレビのネタになる！」ような事がたくさん見つかりました。これから、いろいろ取材しながら、それを番組にして皆さんの方へ伝えていきたいと思えます。今日はご静聴ありがとうございました。

## フォーラム 参加者の声

- 地域の魅力は、地域には気がつかないことの方が多く、地域の人がかっと人を受け入れる姿勢が必要かと思う。交流人口を求めるならば、地域の人々がいかにか受け入れのための努力をしているかが、…他県から嫁いだ私はとくに思います。(女性、50代、パート)
- 今回フォーラムに初めて参加したが、地域活動を盛んに行っている事に驚きました。益々地域に定着した活動を期待します。(男性、50代、会社員)
- 平野啓子さんのお話、大変おもしろかったです。特に民話や伝説なんか、農業や農生活から生まれたものが多く、そういうことを今の農業の現状と共に、伝えたりする人が秋田にもっと必要だと感じました。魅力発揮に向けて魅力がどんなことなのか、まして秋田独自の魅力って何?となったとき、そこをもっと意識して発掘してちゃんと伝えられる人が、どれだけいるか。もっとそういう人材を秋田の中で育てなければと思います。またそういう人に私も若い者として、なっていかなければと思っています。(女性、20代、団体職員)
- 豊かな自然環境維持と、理解者・後継者の育成・支援のために、大変良い企画・進行だったと思います。農山村の当事者の方々はもちろん、それ以外の都市部に在住の多くの人達に参加してもらい、もっと理解と共感の輪を広げて行ったら素晴らしいと思います。私も農業関係者ではないので、そんな気持ちで参加させていただきました。スタッフの皆さん、ありがとうございました。多様にユニークに発展を祈ります。(男性、60代、無職)
- 阿部さんがおっしゃった様に、交流人口を増やす為に、対外的に様々なメディアを利用してアピールする事が大事だと思います。また佐藤万里子さんがおっしゃった様に、私達が普段気づいていない素材の価値を自覚する事も大事だと思います。(男性、20代)

- 「わくわく探訪」感想文発表は、とても意義のあるものだと思います。佐藤校長からも述べられたように、農業の魅力を子供達に伝えたい、正にそのことがとても大切なことであり、取組んでいかなければならないと考えます。平野氏の「人の手を入れて歩み寄った自然には暖かさが感じられる」と話された事が、とても印象に残りました。コーディネーターの石塚さんのパネリストへの問いかけに、ユーモアが感じられさすがと思いました。(女性、50代、団体職員)
- 秋田は農業県といわれるが、今までの県政の農業施策はあまり一般人にわからない部分があったように思う。報道、広報、イベントを通して理解(施策)を深める機会を多く作ってもらいたい。(男性、50代、会社員)
- 農業農村の資源・財産は貴重なものであります。この財産を保全し将来に受け継いでいく事が極めて大切と考えます。地球人会議の活動は、素晴らしい事を知り今後大いに支援していきたいと思えます。(男性、60代、無職)
- 農村の魅力、自然資源、伝統文化も分かりましたが、高齢化でなんとか頑張っている方達を救ってあげるには、どうしたら定年のない楽しく続けていける農業をといったテーマもあっていいと思いました。(女性、60代、自営業)
- 農業・農村の魅力発揮は、現在農村に住んで農業に携わっている方々が、まず自分達がいつも日常で触れているものの真価に気付くことから始まると思います。そこに是非もっとも子供達を巻き込んでいって欲しいと思う。都市部に限らず、秋田の子供も農産物や農作業に触れているとは限らないと思う。「自然」や「農業」の体験を子供達に与えようという視点で、それらに詳しく誇りを持っている農村部の方々が、受け入れ手になるような活動が増えると、素晴らしいと思います。そして少しでも「自然」や「農業」の体験をした子供は、大人になって都市部の住民になったときに、農業・農村からの魅力発揮活動の受け手にも、なってくれるのではないのでしょうか。(女性、30代)



地産地消ランチ

菟沢の棚田



棚田ライブ

平成17年9月11日、秋田県は湯沢市・羽後町の共催、水士里ネットワーク・秋田・雄勝地域土地改良区協議会の後援により「2005秋田県中山間ふるさと水と土現地見学会」を開催した。農山村のもつ魅力を再発見し、中山間の抱える問題に関心を持つことから始めることを主な目的とし、前日の秋田市AMN「2005秋田県中山間ふるさと水と土・地球人フォーラム」の現地体験版として、秋田県中山間地域土地改良施設等保全対策事業（ふるさと水と土事業）で実施したものの。県内はもちろん、岩手、埼玉、長野からの参加者も含めてバス3台、100名の参加があった。特筆すべきは参加者だけでなく地元の方々が我が地域の「自然・人・文化」の素晴らしさを再発見、再認識することができたという点。開催にあたっては地元協力者34名を含む現地スタッフが約80名にも及んだ。

当日は湯沢市岩崎八幡神社で文化財保護協会のガイドによる鹿嶋様の見学から始まり、田代の歴史を探る会のガイドを受けながらバスで羽後町へ移動し、旧田代村地主・長谷山邸の庭で「仙道番楽」

仙道番楽



中山間地域の魅力発揮に向けて！  
～美しき水士里の郷おがち・屋根のないふるさと博物館～

## 「2005秋田県中山間ふるさと水と土現地見学会」を開催



鹿嶋様

と「西馬音内盆踊」の観賞。伝統芸能に直に触れた参加者から何度も大きな拍手が送られた。

地元農家レストランと郷土料理メンバーが腕をふるった地元産そば粉の冷がけそば・ハサ掛け米おにぎりなどの地産地消ランチは好評を得た。羽後の鷹匠・土田力三さんの記録を収めた16mm映写や直売所での特産品コーナー、食後にはゲスト「野花南（のかなん）」による絵本の朗読会が参加者を魅了した。

午後には、県自然環境保全地域の「刈女木湿原」を自然保護指導員を講師に散策し、最後には標高2500〜3000mに位置する菟沢（あざみざわ）棚田。四囲が山に囲まれた中に、明治時代に建てられた築120年ほどの茅葺民家。「野花南」の棚田ライブでは、モンゴルの楽器「馬頭琴」を弾きながら「ホーミー（のどついた）」が奏でるメロディが、四囲の里山と棚田一杯に響き渡った。

参加者からは「人の手入れというものがいかにあたたかい風景をつくるか感動した」・「棚田ライブ、たわわに穂った稲穂とのシチュエーションが良く心に響い

た」・「番楽で、新旧世代間の引継が上手に行われているように見受けられました。郷土芸能のみならず中山間での若年層定住問題にも通じると考えられますので心強い展開ではないかと思えます」といった感想が述べられていた。

秋田県では今後も中山間地域の多面的機能の役割・魅力発揮と活性化について、広く県民にも関心を持ってもらえるよう、同様のイベント開催に継続的に取り組む予定である。詳細はこちら↓

[http://www.pref.akita.jp/fpd/kanosanson/teiju\\_kankyou/furu\\_mizu\\_grep2005/furumizu\\_grep2005.html](http://www.pref.akita.jp/fpd/kanosanson/teiju_kankyou/furu_mizu_grep2005/furumizu_grep2005.html)

なお、秋田県では、本事業の一環として、国際教養大学地域環境研究センター（センター長 熊谷嘉隆助教）と連携し、「Akitaふるさと活力人（かっぴりょくびと）養成セミナー」を平成17年度より開講しています。このセミナーにより、農山村地域の持つ自然・伝統・文化・人的資源を活かした地域ぐるみの活性化を担う人材の養成を図りながら、「ふるさと水と土指導員」の育成に努めています。

（秋田県農林水産部農山村振興課）

平成17年度

# 地球人会議 活動状況



## 1 会議・イベント等の開催

### ●平成17年度地球人会議・運営委員会

内 容:平成16年度収支決算、平成17年度事業計画等の承認  
日 時:平成17年6月1日(水)  
場 所:水土里ネット秋田・第1会議室(秋田市)  
参加者:運営委員12名



### ●「水土里の郷 わくわく探訪」 ～土地改良施設巡り～

内 容:秋田市と潟上市の児童・保護者が参加して、農業水利施設や農業農村整備事業を見学。水の大切さ、農業水利施設の役割や歴史などを学習する。  
日 時:平成17年7月9日(土)  
場 所:龍毛ため池(潟上市)、防潮水門(男鹿市・潟上市)、南部排水機場(大潟村)、滝の頭湧水(男鹿市)  
参加者:135名



### ●地球人フォーラム2005

内 容:「あきたの農業・農村の魅力発揮に向けて!」をテーマに、秋田の農業・農村の魅力と中山間地域の振興について意見を交わす。  
・秋田県21創造運動表彰式  
・事例発表&活動報告  
①「21創造運動」活動報告  
②「秋田県中山間ふるさと水と土フォーラム」活動報告  
③「水土里の郷 わくわく探訪」感想文発表  
・基調講演  
「語りは心の絵画～語り伝える大切さ～」/平野啓子さん  
・パネルディスカッション  
「あきたの農業・農村の魅力発揮に向けて!」  
日 時:平成17年9月10日(土)  
場 所:秋田拠点センター・アルヴェ(秋田市)  
参加者:約330名

## 2 会員への情報提供

### ●県・水土里ネット等が主催する各種行事に関する情報提供

### ●会報の発行

「大地の恵み vol.7」を会員に配布(発行予定:平成18年3月)

### ●インターネットを利用した情報提供

<http://homepage2.nifty.com/akidoren/>(水土里ネット秋田)  
<http://www.inakajin.or.jp/chikyu/kaigi2.html>(全国水土里ネット)

## 3 他団体が主催する行事との連携

### ●秋田県21世紀土地改良区創造運動 表彰選考委員会

内 容:21創造運動との連携を図ることから、「秋田県21創造運動表彰」の選考委員として委員会に参加し選考審査を行う。  
日 時:平成17年6月15日(水)  
場 所:水土里ネット秋田・第1会議室(秋田市)  
選考委員:(地球人会議運営委員関係)  
佐藤万里子、長谷山 光、藤井 明

### ●秋田竿燈まつり

内 容:秋田竿燈まつりにおいて、竿燈の出竿及びPR用ポストカードの配布を行う。  
日 時:平成17年8月3日(水)～6日(土)  
場 所:秋田市竿燈大通り  
参加者:約30名



### ●農業農村整備フェア

内 容:種苗交換会の協賛行事である「農業農村整備フェア」に協力。  
日 時:平成17年11月1日(火)～11月7日(月)  
場 所:鹿角市花輪市民センター  
来展者:約2,000名



## 4 その他

### ●「21世紀土地改良区創造運動」との連携

- 水土里ネット秋田が行う「水土保全強化対策事業」との連携
- 他団体との連携の強化
- 農業関係者以外の会員募集の強化

# 水士里の郷

# わくわく



# 訪

## 土地改良施設巡りを開催



龍毛ため池で説明を聞く参加者



十字ブロックに願い事を書く子供たち・防潮水門にて

7月9日(土)、農業施設や湧水などを巡る「水士里の郷 わくわく探訪」が潟上市と男鹿市、大潟村で開催され、秋田市と潟上市の小学校児童と保護者合わせて140名が参加し、ため池や防潮水門、排水機場、湧水などの各施設を見学した。「わくわく探訪」は、子供たちに農業水利施設などを見学してもらい、農業・農村について理解と関心を持ってもらうと毎年水士里ネット秋田(秋田県土地改良事業団体連合会)が実施してきたおり今年で9回目の開催。昨年から「あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」(高畑進会長、会員約1200名)の主催で行われている。

興局農村整備課担当職員案内で昭和土地改良区が管理している「龍毛ため池」(潟上市昭和豊川)を見学した。農業用水としてのため池の歴史や役割、災害時の機能、生き物にとつての働きなどについて説明を受けながら、熱心にメモを取っていた。

その後、八郎潟干拓事業の一環として造成された防潮水門(男鹿市)を見学。防潮水門は築後約40年が経過し、現在改修工事が行われており、「第一期工事」(平成13年11月12日～平成18年3月31日)として仮締切内の本体工、魚道、舟通し、管理橋などの施設の工事が実施されている。工事現場内を訪れた一行は、東北農政局男鹿東部農地防災事業所の担当職員から工事の概要について説明を受け、見学した記念として護床工に使



南部排水機場前での記念撮影

われる十字ブロックに、それぞれの願い事を自由に記入していた。

また、南部排水機場(大潟村)では、場内の各施設や5台のポンプ、操作室などを順次見学しながら、八郎潟干拓地を維持・管理している排水機場の役割や機能、大潟村の歴史や農業について、施設の管理を行っている県八郎潟基幹施設管理事務所の担当職員から説明を受けていた。

午後からは滝の頭湧水(男鹿市)を見学。滝の頭湧水は、男鹿市の観光地 寒風山(標高355m)が貯水している地下水のほぼ7割が湧水となって湧き出し、その量は25,000t/日で、地元の農業用水はもちろん、水道水としても重要な水源となっている。神秘的な色彩を写しだしている滝の頭や湧水源、歴史的な施設の円



滝の頭の湧水源から水を汲み取る子供たち

形分水工、水道水の浄化施設、隣接するため池等を、男鹿市や滝の頭を管理する男鹿市五里合土地改良区の担当職員が案内しながら、機能や役割について説明をおこなった。

今回は昨年に引き続き、参加者が定員をオーバーし、見学した各施設でも熱心にメモをとったり、盛んに写真を撮る姿が見受けられ、関心の高さがうかがえた。農業農村整備事業の広報活動の一環としてスタートした「わくわく探訪」も、回数を重ねるごとに盛況となり、今後の展開も大いに期待できるよつに思われる。今後は「水士里」に対する理解者を増やす活動として、県内の21創造運動と連携を図りながら活動の輪を県内各地に広げていきたいと思っている。

※「わくわく探訪」は前回から、「あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」が主催

## 「地球人フォーラム2005」で、 発表を行った2人の感想文を紹介します。

### 初めて見た いろいろな水



秋田市立御所野小学校6年  
明平 真歩さん

わたしは、七月九日におこなわれる水土里のさとわくわく探訪に、友達にさそわれて行くことになりました。最初は、水のことには学校でやったから分かると思っていましたが、今回行って、今まで知らなかったことがたくさん分かりました。

まず、最初にりゅう毛ため池に行きました。いろいろな話してくれた中で一番びっくりしたのは、貯水量が二十一万立方メートルもあるということです。とても多い水の量におどろきました。

次に、防潮水門に行って、防潮水門が必要な理由を聞きました。理由は、お米を育てる水を海の水とまざらないようにするためと聞いてわたしは、米を大事にしているんだなと思いました。

次は南部はい水機場に行きました。ここには、雨水や水田からの排水を見て、こんなにきたない水がこんなにあるのかと思いました。最後に滝の頭水源に行きました。

ここでは、わき水が出ていて実際に飲んでみました。

その味は、氷を何十個も入れたくらい冷たく、水とはおもえないくらい甘かったです。

水の色もきれいで、さっきの排水とは大ちがいでした。両手を入れて何秒かすると、手が冷たく、ひりひりしてきました。この水が冷たいわけは、岩と岩の間から流れてきたからと聞いて自然の力はすごいなと思いました。

最近では昔より、水を使う量が多くなってきたので、水を必要とする所がある中、わたしはわき水を飲んだり、りゅう毛ため池に行ったりしていろいろな水のことを体験したことで、水を大切にしている人達がいる事を知りました。と同時に、水を守るためには自然も大切にしなければならぬことを知りました。

わたしも、水を大切にするために、自分なりにできることを続けていきたいと思います。

### わくわく 探訪を 終えて



湯上市立天王小学校4年  
星川 りささん

「ドキドキするね。」と、わたしは友達と言葉をかわしました。他校の人達もいるせいかもしれませんが、どんな事を見たりするのか、とても期待でいっぱいでした。ブルーメッセから歩いて、「りゅう毛ため池」に着きわたし達のたんぼうが始まり、係の人がくわしく説明してくれました。防潮水門、南部はい水き場と、次から次へと初めて聞く言葉だらけでした。実は今、社会科で「水」の勉強をしています。今回参加したのも「水」のことをもっと知りたかったからです。

ポンプの部屋では、ガタガタ鳴ったりゆれたり。係の人がスイッチを押すと、「ジャッポーン。」と、ぱく発したように、大きく飛び上がり、びっくりすることばかりでした。

たきの頭水源では、冷たくおいしいわき水も飲み、ペットボトルに水をくみ、お家のおみやげにしました。「なんか甘いね、おいしい

ね。」と、家族みんなで飲み、だつて「全国で3番においしい水だもん。」とわたしは教えてあげました。

今日の事について、ふり返ってみると、知っているようで、知らないこともたくさんありました。水のいろいろな事を知りちょっとえらくなつたし、楽しい一日でした。

水の大切さも分かり、水を出しっぱなしにしない。お母さんにもお風呂のお湯をあふれさせないようにと言ったら「そうだね。気を付ける。」と言っていました。今日の事は、わすれられない思い出になったと思います。



# 農山漁村について

(農林水産省 ージュニア農林水産白書ーより)

## 農林水産業には、わたしたちの生活を支える 様々な働きがあるんだ。

農林水産業は、食料や木材を生産する以外にも、わたしたちの生活に欠かせないいろいろな働きがあります。例えば、田んぼや森林は水をたくわえて災害を防いだり、いろいろな生き物のすみかとなります。漁業は、海の環境や資源を守ることでも成り立っています。

また、農山漁村では、伝統文化を守ったり、自然体験ができたり、美しい景色が楽しめます。このように、農林水産業は農山漁村の人のくらしだけでなく、都会の人のくらしも支えています。



農林水産業や農山漁村はわたしたちの生活と  
どんなつながりがあるんだろう？



農林水産業には、食料や木材を生産する以外にもいろいろな役割があるんだ。

農地や農業水路、森林、漁場などをしっかり守ることが必要があるね。



森林・林業や水産業・漁村にはさまざまな働きがあるけど、ここではおもに農業や農村を中心に調べてみよう。



# 農林水産業や農山漁村のもつ いろいろな働きをくわしくみてみよう

田んぼは水をためて洪水を防ぐほか、  
さまざまな生き物のすみかとなっているんだよ。

田んぼは、たくさん雨がふっても、いったんその雨をためてからゆっくりと川に流すことができるので、洪水を防ぐ働きがあります。また、田んぼは多くの生き物のすみかとなるので、生き物たちのためにも田んぼを残していくことが大切です。



トノサマガエル



メダカ



ゲンゴロウ※

※資料:「里地・田んぼではじめる自然回復」



ちようがいぼうび  
潮害防備保安林  
つなみ、たかしらしおかせ、いまち  
津波や高潮、潮風の勢いを  
じゆうたく  
弱め、住宅や農地などを守る



ぼうせつ  
防雪保安林  
ふゆの  
吹雪から道路や  
鉄道を守る



ふうち  
風致保安林  
めいしよ きゆうせき  
名所・旧跡や美しい景色を保存する

## 保安林をみると森林のもつ さまざまな働きが見えてくるんだよ。

みんなのくらしを支えるため、国や県により指定され管理されている森林(これを保安林といいます)があります。保安林には、水をたくわえるための水源かん養保安林など、目的により17種類があり、いろいろな役割を果たしています。

## 漁業で働く人は海の上で人助けもしているんだよ。

日本の漁船は約21万せき。これは海岸170mあたりに1せきという数です。海では、船同士しょうとつや海水浴をしている人が沖に流されるといった事故が多く発生しています。人数は不明ですが、多くの人が漁業で働く人によって救助されています。例えば、漁業で働く人を中心とするあるボランティア組織だけでも、これまでに19万人の人を救助しています。



2

農山漁村と都会の人たちが  
おたがいに交流しよう。  
もつと交流しよう。

## 農山漁村では何が起きているのだろう？

若い人が農山漁村から都会に移り住むようになり、農山漁村にはお年寄りの人たちが増えています。そのため、農山漁村のきれいな景色やいろいろな動植物、農地や水路などを農林水産業で働く人たちだけで守っていくことがむずかしくなっています。



ちいきじゆうみん  
農家と地域住民が  
きょうりよく する  
協力して水路を  
手入れしているようす  
やまがたけんさかえし  
(山形県寒河江市)



## みんなで協力して農山漁村を 大切にすることが必要なんだ。

農林水産業で働く人たちだけで農山漁村を守ることがむずかしくなっているので、地域の住民や都会の人が協力することが大切です。そして、住みやすく、都会の人たちもおとずれたくなるような農山漁村にすることが大切です。

## 農山漁村の人たちと都会の人たちがおたがいに もつと交流しよう。

農山漁村には、おいしい食べ物やむかしから伝わるお祭りなど、いろいろな文化や美しい風景があります。また、こうした農山漁村の大切さや良さを知ってもらうため、農林水産業の体験をしたり、その土地の伝統的な食べ物を食べてもらえるような機会もつくられています。農山漁村の人たちと地域や都会の人たちがもつと交流することが大切です。



たいりゆう ねが  
大漁を願う漁村のまつり  
たいせいの活動や  
体験も参加する  
(豊洲まつり・愛知県南知多町)



えだうち たいけん  
枝打ち体験をしている  
ながのけんねばむら  
ようす (長野県根羽村)

# 疏水

そすいひやくせん

# 百選

日本の“水・土・里”は、いま大きな曲り角にきています。

## 疏水百選とは？

農村の高齢化、農業の国際競争への対応、環境意識の高まり、こうした状況が重なって日本の“水・土・里”は、いま大きな曲がり角にきています。農林水産省では、日本の美しく豊かな“水・土・里”を育て維持していくことが重要と考え、なかでも農業のための用水をテーマとして疏水百選を実施しました。

## 疏水とは何か？

日本では、古代から近代にいたるまで水田を中心とした国造りが行われてきました。急峻な地形、モンスーン気候といった厳しい条件下で、国土を保全し、狭い耕地ながら多くの人口を維持するためには、水田社会の形成はいわば必然の選択だったとも言えます。

水田は多量の水を要します。

米の出来不出来は水の管理次第。先人は、水を得るため何10キロと離れた川に堰を築き、村まで水路を引いてきました。水田造りは、とりもなおさず水路造りを意味します。田や村が増えつつけるたびに水路もまた増え続けました。

二千年にわたって営々と築かれてきた農業用水路。その総延長は実に約40万km。地球10周分に相当するほど無数の水路群が、細かい網の目のように日本の国土に張り巡らされています。

『疏水』とは、この水路造りや水路網をあらわしています。先人が築いた疏水は、現在も脈々と私たちのまわりを流れています。

## 疏水の現在

国民共有の資産である疏水は、これまでほとんど農民(土地改良区)の手によって維持管理されて

きました。疏水周辺の草刈り、泥の浚渫、ゴミ拾い、破損個所の修復…。

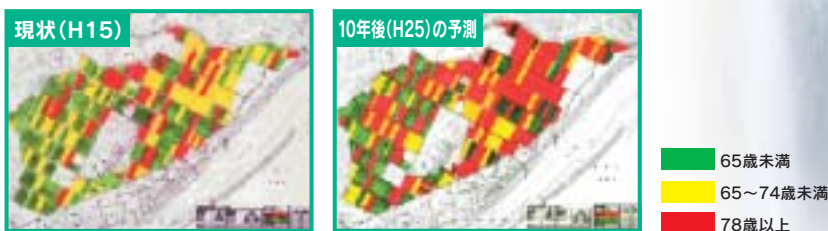
しかし、農村における農家の割合は、すでに1割程度に過ぎなくなっています(全国平均)。しかも、そのほとんどが他に勤めを持つ兼業農家。山林の手入れなどは、到底望めそうにありません。

また、いわゆる中山間地域の農村では過疎、高齢化が進行し、担い手もないまま、条件の悪い耕地はどんどん放棄されていきつつあります。このままいくと10年後には深刻な事態となることが確実視されています(図1)。

国民共有の資産である疏水の役割が今後とも維持され、美しい農村の景観と国土が守られるためには、農家のみならず地域住民や都市の人々も含めた国民全体でその保全活動に取り組み、次世代に継承していくことが必要です。

## 図1:急速に高齢化が進み耕作放棄が懸念される例

M県M市T地区の10年後をみると、75才以上の高齢者の耕作する農地が地区の約半分を占めることとなり、地域の共同管理作業の粗放化や耕作放棄地の増加が懸念されます。



## 疏水百選の主旨

1 疏水は、約40万kmにも及ぶ食料供給の基盤であり、国土・環境保全、美しい景観の形成など多面的機能を発揮する国民共有の資産。

疏水【疏水・疎水】1.水を流すこと。2.灌漑・給水・舟運または発電のために、新たに土地を切り開いて水路を設け、通水させること。また、そのもの。多くは湖沼・河川から開溝して水を引き、地形によってはトンネルを設けることもある。【広辞苑】

2 長い歴史の中で育まれ、地域によって守られてきたが、過疎化、高齢化等によりその保全管理が困難化。

3 このため、国民全体で保全活動に取り組み次世代に継承していくことが必要であり、国民的な運動として進める観点から、「疏水百選」を実施。

## 選定の経緯

1.百選の募集 平成17年6月～8月  
疏水百選の候補地区をインターネット等により一般から募集(応募総数 499件)

2.インターネット等による投票 平成17年10月～12月  
候補地区を一次選定で284地区に絞り、インターネット等による一般投票を実施  
投票総数 約22万6千件

3.疏水百選の決定 平成18年1月27日  
第4回選定委員会で疏水百選110地区を決定(平成18年2月2日発表)

4.疏水百選の表彰 平成18年2月22日  
オーライ!ニッポン全国大会で疏水百選の代表地区に農林水産大臣認定証を授与

## 疏水百選選定委員会

- |        |                    |
|--------|--------------------|
| 太田 信介  | 水資源機構副理事長          |
| 織作 写真家 | 写真家                |
| 古谷 堯彦  | 全国地方新聞社連合会副会長      |
| 佐治 信忠  | サントリー社長            |
| 中村 桂子  | JT生命誌研究館館長         |
| 林 良博   | 東京大学大学院教授          |
| 平野 啓子  | キャスター、語り部          |
| 柳澤 秀夫  | NHK解説委員            |
| 養老 孟子  | 東京大学名誉教授           |
|        | オーライ!ニッポン会議代表      |
|        | (50音順、敬称略)         |
| 猪口 邦子  | 上智大学法学部教授          |
|        | (委員期間:平成17年3月～10月) |

# 疏水 紹介



## 上郷温水路群

水土里  
ネット  
象 潟

### ■ 疏水の所在

秋田県にかほ市(旧象潟町)にあり、水路幅が5.4~20.0mと広く水深の浅い温水路群です。

### ■ 所在地域の概要

鳥海山麓に広がる標高約200m、約533haの台地にあります。

### ■ 疏水の概要・特徴

鳥海山(標高2,236m)の北西山麓の大地をかんがいつする5本の温水路群で総延長5.8kmに達する疏水です。この地域の農業用水は鳥海山の雪解け水と湧水を利用しているため、水量は豊富なものの水温がとても低く、冷水障害によって稲作の収量は毎年のように減収となっていました。昭和の初期、電源開発に伴う発電所の設置を機に水温上昇を図る施設として建設され、現在に受け継がれています。

## 田沢疏水

水土里  
ネット  
田沢疏水

### ■ 疏水の所在

秋田県仙北市・大仙市・美郷町の農地を潤す、長さ30.6kmの疏水です。

### ■ 所在地域の概要

秋田県南西部に広がる仙北平野の東部に位置し、秋田県最大の穀倉地帯の一角を形成し、東北地域の国営事業の牽引的役割を果たしました。奥羽山麓沿いに開拓された3,890haにも及ぶ田園地帯です。

### ■ 疏水の概要・特徴

田沢疏水事業の国営開墾は、昭和12年から着工し度重なる戦争の影響を受け工事は一時中止、大幅な工期延長等を余儀なくされたが、その計画面積は2,500町歩を予定し、内1,700町歩は地元の小農家の増反用地にあて、残り800町歩には約400戸の移住家屋を建設し、優良なる新農村を創設するために、隧道、水路が建設され(約34km)昭和37年に完成した。悪名高き玉川毒水と開拓者に「ジャングルの原始林」と呼ばれた荒野の開拓地は広大な田園風景に溶け込む散居集落と屋敷林へと変わった。

## 疏水百選認定地区

北河幹線用水/北海道  
旭川聖台用水/北海道  
篠津中央篠津運河用水/北海道  
稲生川用水/青森県  
土淵堰/青森県  
岩木川右岸用水/青森県  
照井堰用水/岩手県  
鹿妻穴堰/岩手県  
胆沢平野/岩手県  
大堰用水路・立花頭首工/岩手県  
奥寺堰/岩手県  
愛宕堰/宮城県  
大堰(内川)/宮城県  
上郷温水路群/秋田県  
田沢疏水/秋田県  
寒河江川用水(二の堰・高松堰)/山形県  
北橋大堰/山形県  
金山大堰/山形県  
山形五堰/山形県  
安積疏水/福島県  
会津大川用水/福島県  
備前堰用水/茨城県

福岡堰/茨城県  
那須野ヶ原用水/栃木県  
おだきさん/栃木県  
渡良瀬川沿岸/群馬県  
広瀬用水(広瀬川)/群馬県  
雄川堰/群馬県  
長野堰用水/群馬県  
群馬用水/群馬県  
見沼代用水/埼玉県  
葛西用水/埼玉県  
備前渠用水/埼玉県  
印旛沼/千葉県  
大利根用水/千葉県  
両総用水/千葉県  
府中用水/東京都  
荻窪用水/神奈川県  
文命用水/神奈川県  
村山六ヶ村堰疏水/山梨県  
差出堰/山梨県  
五郎兵衛用水/長野県  
塩沢堰/長野県  
八ヶ郷用水/長野県

善光寺平用水/長野県  
拾ヶ堰/長野県  
大井川用水(大井川用水・大井川右岸用水)/静岡県  
源兵衛川/静岡県  
深良用水/静岡県  
加治川用水/新潟県  
亀田郷/新潟県  
十二貫野用水/富山県  
常西合口用水/富山県  
鷹栖口用水(砺波平野疏水群)/富山県  
舟倉用水/富山県  
辰巳用水/石川県  
金沢疏水群(大野庄用水・野月用水・長坂用水)/石川県  
手取川疏水群(手取川七ヶ用水・宮竹用水)/石川県  
九頭竜川下流/福井県  
足羽川用水/福井県  
瀬戸川用水/岐阜県  
席田用水/岐阜県  
愛知用水/愛知県  
豊川用水/愛知県  
明治用水/愛知県  
濃尾用水/愛知県

枝下(しだれ)用水/愛知県  
立梅用水/三重県  
南家城川口井水/三重県  
愛知川用水/滋賀県  
野洲川流域/滋賀県  
犬上川沿岸/滋賀県  
湖北用水/滋賀県  
洛西用水/京都府  
琵琶湖疏水/京都府  
大和川分水築留掛かり/大阪府  
東播用水/兵庫県  
淡山疏水/兵庫県  
東条川用水/兵庫県  
大和平野/奈良県  
小田井用水/和歌山県  
大井手用水/鳥取県  
天川疏水/島根県  
高瀬川/島根県  
東西用水(高梁川・笠井堰掛)/岡山県  
西川用水/岡山県  
芦田川用水/広島県  
寝太郎堰(寝太郎用水)/山口

藍場川(大溝)/山口県  
那賀川用水/徳島県  
香川用水/香川県  
銅山川疏水/愛媛県  
道前道後用水/愛媛県  
山田堰井筋/高知県  
大石用水/福岡県  
裂田の溝(さくたのうで)/福岡県  
堀川用水/福岡県  
柳川の堀割/福岡県  
大井手堰(石井堰~多布施川)/佐賀県  
小野用水/長崎県  
上井手用水/熊本県  
幸野溝・百太郎溝/熊本県  
南阿蘇村疏水群/熊本県  
通潤用水/熊本県  
緒方疏水/大分県  
城原井路(神田頭首工)/大分県  
杉安堰/宮崎県  
清水篠井手用水/鹿児島県  
筒羽野の疏水/鹿児島県  
宮古用水/沖縄県



# あなたの声が“原動力”！ 一緒に活動に参加しませんか。

## 【食料】

我が国の食料自給率は40%。もし、輸入農産物がなかったら…。  
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。

## 【環境】

「水」、「土」、「里」は私たちが生きるために必要です。  
今、安全・安心なものはどれですか？

## 【ふるさと】

緑豊かな田園。心の豊かさと安らぎ、そして人間らしさ…。  
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「田園秋景」第7回写真コンクール入賞作品

「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、  
安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして  
緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、  
発言し、行動する組織です。一人ひとりの力が活動の原動力です。  
みなさんの参加をお待ちしております。

### 地球人会議の活動内容

- ①シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- ②パンフレットや情報誌等の発行
- ③アンケート調査等による会員との意見交換
- ④インターネット等を活用した会員との情報交換



この印刷物は地球にやさしい大豆油インキで印刷されています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。

### （お願い）

情報誌「大地の恵み」は、年1回会員の方々に配布しています。住居変更があった場合、情報誌の配布を希望しない方は、お手数ですが事務局までご連絡ください。